

食べ物探し

1. イノシシ

雪が積もるようになると、イノシシが平地へ降りてきます。打吹山は年中出てくるのですが、冬は餌を探して掘った跡が大幅に増えます。暖かい時期はミミズを目当てに落ち葉などをかき分けた跡が残っていますが、冬はクズとヤマイモを目当てに深く掘り、土を掻き出しています。

クズもヤマイモも日当たりの良い場所に生育しますから、遊歩道脇でよく目にするようになります。鼻だけを使って深さ数十cm以上も掘りますから、首には相当の力がかかるはずで、猪首になるのは当然でしょう。2本の指先は蹄(ひづめ)となっていて、ウシと同じく偶蹄類(ぐうていりい)に分類されています。ぬかるみや土の露出した場所を通ると蹄の跡が残ります。成獣でも10cmにも満たない小さな蹄のため、積雪時は雪を踏み抜いてしま



イノシシ



死んだイノシシの頭蓋骨

山地での生活ができないため、冬の打吹山では遊歩道沿いのクズの地下茎や、公園に多いヤマイモが標的となるのです。まだ市街地に降りてきていませんが、市役所駐車場や成徳小学校の校庭までできていますから、人の出すゴミや残飯が餌であると覚えれば、街中に現れることになります。不用意に打吹山に食べ残しを捨てて味を覚えさせないようにしましょう。

2. クズのでんぷん

カズラと呼ばれているクズは繁殖力が強く、つるをどんどん伸ばし、地面に着いた節から根を出します。途中でつるを切られても枯れることがなく、個体数が増えるだけです。大きな葉を広げて他の草木の上に被さり、光を奪って一人勝ちです。法面や裸地緑化のため米国に持ち込まれたクズは、植林を枯らす、電線を切るなど、繁茂しすぎ害草として問題となっています。

夏の間、この旺盛な光合成能力によってつるや葉を増やしたクズは、秋になると作った多量のデンプンを地下茎に蓄えはじめます。つる部分の直径が数cmになったクズの地下茎は、直径が30cm以上にも膨らみ、長さも2m以上になると思われま

クズの地下茎
長さ約1m 重量約10kg

峠の展望台近くの少し小ぶりの株の採掘に挑戦しましたが、1mばかりで諦めました。重量も10kg以上あり、提げて下山することができず、引きずって下りました(写真の右端の地下茎が、地上のつるにつながっていた)。デンプンを取り出すと高級なクズ粉となるのですが、近年は掘り取りの重労働をする人もなく、資源は放置されたままです。葉も飼料として有用なのですが、現代の生活の中では利用がなくなって茂るに任せたままになっています。

膨れた地下茎を潰して水中で揉むとデンプンが出てきます。アクで茶色の水になりますが、放置するとデンプンが沈殿します。上澄みの水を捨て、再度新しい水を入れてかき回すとまた茶色のアクが出ますが、数回繰り返してアクを除いた後、乾燥すると白いキメの細かいデンプンが取れます。絞り機がないと、潰す作業が一番困難です。叩くとデンプンとアクの混じった水が飛び、粒子が小さいため服につくと取れなくなります。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2019)